

施設名称：大阪府立弥生文化博物館	指定管理者：大阪府文化財センター・近鉄ビルサービスグループ	指定期間：平成29年4月1日～平成32年3月31日	所管課：大阪府教育庁 文化財保護課
------------------	-------------------------------	---------------------------	-------------------

評価項目	評価の基準（内容）	指定管理者の自己評価 （11月記入）		施設所管課の評価 （12月記入）		評価委員会の指摘・提言
			評価 S～C		評価 S～C	
<p>I 提案の履行状況に関する項目</p> <p>(1)施設の設置目的および管理運営方針</p>	<p>◇館の設置目的及び提案内容に沿った管理運営がなされているか</p> <p>○資料の収集・整理・保管と活用</p> <p>○歴史、文化等に関する教育への寄与</p> <p>○池上曽根史跡公園、池上曽根弥生学習館と一体となった事業の実施</p> <p>・事業実施4回</p> <p>○大阪の魅力の発信</p> <p>・大阪府の遺跡を紹介するスポット展示の開催1回</p>	<p>○資料の収集、整理、保管、展示</p> <p>重要資料は、特別収蔵庫においてモニター監視のもとに温度20～24度、湿度50～60%を維持する適切な温湿度管理を行い、厳重に保守管理を行った。また、新規寄贈・購入図書等（計1,437冊）は、資料図書室に収蔵し、また、データベースに入力し、既存図書とあわせて調査研究の資料として活用した。</p> <p>○歴史、文化に関する教育への寄与</p> <p>学校教育との緊密な連携（校外学習、出前授業等）により、考古学や教育学の専門家が具体的な素材を用いてわかりやすく解説することで、社会教育施設である博物館の歴史学習の場としての役割を果たし、歴史・文化等に関する教育の充実に寄与した。</p> <p>文化庁補助事業「つらなる・つながる歴史ミュージアム事業」において、絵手紙を用いた市民参加型プログラム「いにし絵てがみ」を進め、全国からの参加を得た。</p> <p>○池上曽根史跡公園、池上曽根弥生学習館と一体となった事業の実施</p> <p>・事業実施4回</p> <p>史跡公園で開催された「小規模事業者ふれあうフェア」「高校軽音フェスタ」「JA いずみの農業まつり」、学習館で開催された「ふれあいまつり」において、土器・銅鐸パズルのワークショップを実施した。</p> <p>○大阪の魅力の発信</p> <p>・スポット展示の開催</p> <p>スポット展示「発掘された弥生人の姿 人形・銅鐸形・石庖丁ー茨木市郡遺跡・倍賀遺跡の最新調査成果ー」を12月から開催予定。出土した土製品や石庖丁を紹介することによって、大阪の魅力を発信する。また、弥生プラザ展示として「南河内の高地性集落」と題して、河南町東山遺跡から発見された土器類を展示し、併せて関連の講演会を開催した。</p> <p>文化庁補助事業において、泉州の8つの博物館と連携した参加型プログラム「はくふだ」を進め、各市の博物館施設の認知と利用を促進した。</p>	A	<p>○資料の収集・整理・保管と活用</p> <p>実物資料について、適切な管理・活用等が行われているほか、関係機関等からの多数の寄贈図書も含め適切に図書の管理がされている。</p> <p>○歴史、文化等に関する教育への寄与</p> <p>学校等の受け入れ(104回)や出前授業(82回)による学校教育への寄与に加え、漫画やアニメを活用した解説、文化庁補助事業による絵手紙を用いたプログラムの実施等、小・中学生が楽しく学べる事業実施に取り組んでおり、計画を上回る実施状況である。</p> <p>○池上曽根史跡公園、池上曽根弥生学習館と一体となった事業の実施</p> <p>台風により史跡公園で予定されていた事業が中止となる事態もあったが、既に評価基準を満たしている。</p> <p>○大阪の魅力の発信</p> <p>スポット展示1回の開催に加え、弥生プラザ展示「南河内の高地性集落」を開催しており、既に評価基準を満たしている。</p>	A	<p>事業は実施できているが、入館者数について目標を達成できない見込みである。</p>

	<p>○府民との協働、活動の場の提供</p> <p>○大学・企業・NPO法人等との協働</p> <p>○調査研究による最新の成果の発信</p> <p>○グループ化による効率的・効果的事業の実施</p> <p>○連携による効率的・効果的な展示企画</p>	<p>○府民との協働、活動の場を提供 エントランスホールで実施するミュージアムコンサートの出演者、ミニギャラリーの出展者を募集し、府民の活動の場としての利用を促進した。また、ミュージアムギャラリー「創作展いずみ」を開催した。</p> <p>○大学・企業・NPO法人との協働 文化庁補助事業において、東京大学、富士ゼロックスと協働し、情報技術ワークショップ「弥生×デジタル」、VRによる遺跡情報の提供等を実施した。また、NPO「はにコット」と連携したワークショップイベントを実施した。</p> <p>○調査研究による最新の成果の発信 夏季特別展「沖縄の旧石器人と南島文化」及び秋季特別展「海に生きた人びと」の図録・リーフレットを発行した。また、弥生プラザ展示として「南河内の高地性集落」と題して、河南町東山遺跡から発見された土器類を展示し、併せて関連の講演会を開催した。</p> <p>○グループ化による効率的・効果的事業の実施 博物館の具体的事業運営は大阪府文化財センターが、施設管理は近鉄ビルサービスが担当し、両者の専門性に即した業務を分担することによって、より効率的な博物館運営が可能となった。また、近鉄グループのネットワークを活用し、あべのハルカス等において、講演会、ワークショップ等の事業を実施した。</p> <p>○連携による効率的・効果的な企画展示 ミュージアムギャラリー「創作展いずみ」を和泉市文化協会と、夏季特別展「沖縄の旧石器人と南島文化」を沖縄県立博物館・美術館と、共同主催事業として開催した。また、大阪府立狭山池博物館、大阪府立中央図書館と連携し、館外展示を実施した。</p> <p>◎自己評価 弥生時代と現在を繋ぐ博物館として、小中学校との連携、隣接関連施設での催しへの出展、弥生プラザ及びスポット展示（予定）の開催、ミュージアムコンサート、ミニギャラリーにおける府民との協働、大学及び各団体との協働による連携企画の実施等を通じて、博物館の設置目的と提案内容に沿った管理運営をすることができた。</p>	<p>○府民との協働、活動の場を提供 ミュージアムギャラリー「創作展いずみ」、ミュージアムコンサート、ミニギャラリーにより府民に活動の場が提供されている。</p> <p>○大学・企業・NPO法人との協働 大学・企業・NPO法人との協働事業を実施し、文化庁補助事業による情報技術を活用した事業にも取り組んでいる。</p> <p>○調査研究による最新の成果の発信 展示や図録により、近年の新たな発見等が織り込まれた調査研究成果が発信されている。</p> <p>○グループ化による効率的・効果的事業の実施 両者それぞれの専門性を活かした管理運営がなされるとともに、グループ化を活かした事業実施も行われている。</p> <p>○連携による効率的・効果的な企画展示 他館等との連携事業が館の内外で実施されている。</p> <p>◎施設の設置目的および管理運営方針にかかる評価 すべての評価基準を満たしている。また、文化庁補助事業の活用等により多様な事業の実施に積極的に取り組んでいることから、全体として計画を上回る実施状況と評価できる。</p>		
<p>(2) 平等な利用を図るための具体的手法・</p>	<p>◇公平なサービス提供と対応、障がい者・高齢者への配慮がなされているか</p>	<p>○高齢者、障がい者等への利用援助 9月の敬老の日においては、65歳以上の入館料を無料と</p>	<p>A</p> <p>○高齢者、障がい者等への利用援助 高齢者や障がい者への援助に加え、利用の</p>	<p>S</p>	<p>障がい者への配慮、子どもにもわかりやすい事業とも実施されている。</p>

	<p>効果</p>	<p>○高齢者、障がい者等への利用援助</p> <p>○子どもにもわかりやすい解説の充実</p>	<p>し、高齢者により積極的な声掛けを実施し、初めての方にも安心して博物館を利用してもらえる一日とした。</p> <p>障がい者が参加できるワークショップ「土器銅鐸パズル」等を実施し、支援学校への出前授業として「火おこし」「土器さわり」「もみすり」等のワークショップを実施した。さらに、視覚障がい者への音声コード付コンサートプログラムの提供を行った。</p> <p>○子どもにもわかりやすい解説の充実</p> <p>館キャラ「カイト」と「リュウさん」による弥生時代を解説する「4 コママンガ」と「弥生博アニメ」をホームページ及び館内のデジタルサイネージに掲載した。また、VRブースを新設し、遺跡VRによる遺跡情報の提供を開始した。その他、ICタグをかざすだけの簡便なアクセス方法を利用した展示巡回システムによる、ゲーム感覚で学べるコンテンツの提供を継続した。</p> <p>◎自己評価</p> <p>高齢者、障がい者等への利用援助に努めるとともに、楽しく学習してもらうため、最新のデジタル機器を活用する等のさまざまな工夫によって、子どもたちに、弥生時代についての幅広い知識を伝えることができた。</p>	<p>促進を図る事業が実施されている。</p> <p>○子どもにもわかりやすい解説の充実</p> <p>漫画やアニメ、情報技術の活用により、子どもが楽しく学べるわかりやすい解説のさらなる充実が図られている。</p> <p>◎平等な利用を図るための具体的手法・効果にかかる評価</p> <p>すべての評価基準を満たしている。また、情報技術を活用した新たな情報提供を行っていることから、全体として計画を上回る実施状況と評価できる。</p>	
	<p>(3) 利用者の増加を図るための具体的手法・効果</p>	<p>◇利用者増加のための工夫がなされているか</p> <p>○特別展・企画展の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催回数 4 回 <p>○「木曜大学」講座の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催回数 18 回 <p>○他地域・他館との連携</p>	<p>○特別展・企画展の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミュージアムギャラリー、夏季特別展、秋季特別展 3 回 <p>ミュージアムギャラリー「創作展いずみ」（開催日数 56 日、入館者 11,102 名）、夏季特別展「沖縄の旧石器人と南島文化」（開催日数 69 日、入館者 11,614 名）を開催、秋季特別展「海に生きた人びとー漁撈・塩づくり・交流の考古学ー」を開催中。1 月から冬季企画展を開催予定。</p> <p>○「木曜大学」講座の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木曜大学 15 回 <p>平日の事業として、連続講座「木曜大学」を開催。今年は「再挑戦、弥生博！」をテーマに、過去に開催された特別展を振り返り検証し、館長、副館長が講義を行った。平均 172 名の参加者があった。</p> <p>○他地域・他館との連携推進</p> <p>夏季特別展「沖縄の旧石器人と南島文化」を、沖縄県立博物館・美術館の全面協力のもとに、共同主催事業として開催した。また、文化庁補助事業について、つらなる・つ</p>	<p>B</p> <p>○特別展・企画展の充実</p> <p>冬季企画展の開催により評価基準を満たす見込みである。</p> <p>○「木曜大学」講座の実施</p> <p>12 月までに 18 回実施され、既に評価基準を満たしている。</p> <p>○他地域・他館との連携</p> <p>連携により展示その他の事業が実施されている。</p>	<p>B</p> <p>入館者数等が目標値に届かないことが見込まれる。天候など、指定管理者の責にできない原因も考えられるが、改めて過去のデータとの比較を行い、原因を分析する必要がある。</p>

		<p>ながる歴史ミュージアム実行委員会の中核館として、沖縄県立博物館・美術館、堺市博物館、泉佐野市立歴史館いづみさの他と連携して「カード型教材「はくふだ」の制作と活用連携」事業等を推進した。そのほか、他館との連携事業として、「伊丹市昆虫館ときしわだ自然資料館が弥生博にやってくる！」を実施した。</p> <p>○学校教育との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校等の受入回数 130 回 ・出前授業（小・中学校）の実施 60 回 ・「子ども一日館長」の任命 1 回 <p>○「出かける博物館」事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館外における出張講座 19 回 <p>○「府民が参加する博物館」事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミュージアムコンサートの実施 16 回 ・ミニギャラリーの実施 4 回 	<p>ながる歴史ミュージアム実行委員会の中核館として、沖縄県立博物館・美術館、堺市博物館、泉佐野市立歴史館いづみさの他と連携して「カード型教材「はくふだ」の制作と活用連携」事業等を推進した。そのほか、他館との連携事業として、「伊丹市昆虫館ときしわだ自然資料館が弥生博にやってくる！」を実施した。</p> <p>○学校教育との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校等の受け入れ回数 104 回 <p>小学生、中学生の校外学習を積極的に受け入れた。この他、中学生の職場体験を受け入れ、幼稚園・保育園に対しても、紙芝居、竪穴住居の疑似発掘・復元体験等の学習体験を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出前授業の実施 82 回 2,618 人 <p>府内の小学校、支援学校、放課後教室等からの要請を受け、出前授業を実施した。多くの要望に応えた結果、既に目標回数を超える授業を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「こども一日館長」の任命 <p>地元小学校の協力を得て、H30 年 3 月に実施を予定している。今後も恒例事業として定着させ、子どもたちと博物館との距離を縮める機会とする。</p> <p>○「出かける博物館」事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館外における出張講座 10 回 <p>大学、博物館、関係団体からの要望により、出張講座を行った。加えて関係団体と連携し、館外において「土器・銅鐸パズル」「消しゴム勾玉づくり」「銅鐸風鈴をつくろう！」「泥面子をつくろう！」などの各種ワークショップを 22 回実施した。</p> <p>○「府民が参加する博物館」事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミュージアムコンサートの実施 10 回 <p>さまざまなジャンルのミュージシャンたちによるコンサートを開催。9 月には、夕方開催のトワイライトコンサートを、開館時間を延長して実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミニギャラリーの実施 3 回 <p>エントランスホールにおいて「ガラス工芸展 網目ガラスの世界」「絵画コンテスト優秀作品展」「伊丹市昆虫館ときしわだ自然資料館が弥生博にやってくる！」を実施。今後さらに「古代の表現と考古スケッチの魅力」等の展示を予定している。</p>	<p>○学校教育との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校等の受け入れ回数 <p>進捗状況は 80.0%であり、評価基準を満たす見込みである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出前授業の実施 <p>進捗状況は 136.6%であり、既に評価基準を超えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「こども一日館長」の任命 <p>3 月の開催により評価基準を満たす見込みである。</p> <p>○「出かける博物館」事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館外における出張講座 <p>進捗状況は 52.6%であり、評価基準に満たない可能性がある。</p> <p>○「府民が参加する博物館」事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミュージアムコンサートの実施 <p>3 月までに計 19 回の開催が予定されており、評価基準を満たす見込みである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミニギャラリーの実施 <p>1 月のミニギャラリー実施により、評価基準を満たす見込みである。</p>	
--	--	--	---	--	--

	<p>◇利用者数</p> <p>○入館者数及び館外利用者数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総入館者 55,000 人 ・館外利用者 33,400 人 <p>【参考】平成 28 年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総入館者数 55,041 人 ・館外利用者 32,482 人 <p>◇利用者満足度調査</p> <p>○利用者満足度調査の結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「満足」「やや満足」の割合 90% 	<p>○入館者数及び館外利用者数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入館者数 32,245 人 進捗率 58.6% <p>3 回にわたる台風の接近によって、催しの中止や臨時休館等の不測の事態が生じ、目標達成がやや厳しい状況となっている。今後、冬季企画展、ミニギャラリー、冬のやよいミュージアム、弥生フェスティバルなどの開催により、年度末の目標達成を目指していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館外利用者 21,742 人 進捗率 65.1% <p>小学校への出前授業を中心に、弥生学習館、狭山池博物館等への出張展示、学芸員による出張講座、ワークショップ等を実施している。</p> <p>○利用者満足度調査の結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「満足」「やや満足」の割合 94.3% <p>ミュージアムギャラリーと夏季特別展における調査結果の平均は上記のとおりとなった。今後、秋季特別展、冬季企画展の調査によって、さらなる上昇を目指す。</p> <p>◎自己評価</p> <p>ミュージアムギャラリー「創作展いずみ」では、和泉市文化協会美術部門の優れた作品を、夏季特別展では、沖縄の旧石器時代の資料を、秋季特別展では、弥生時代を中心とした海民文化に関わる資料を展示し、好評を得た。夏季特別展は沖縄県立博物館・美術館との共同主催事業、秋季特別展は日本財団の海のミュージアムサポート事業として、さらに特別展を充実させた。利用者増加のための工夫については、それぞれの目標数値をほぼ達成しつつある。一方、利用者数は、度重なる台風の接近もあって、達成がやや困難な状況となっている。利用者満足度調査の結果は、今後の秋季特別展、冬季企画展に関する結果によって、さらに上昇するものと思われる。</p> <p>また、館外の出張講座が目標に達することができなかったが、各種ワークショップ実施へシフトすることにより、ワークショップの回数は 22 回を数え、館外での事業を積極的にすすめた。来年度以降、館外での講座実施依頼の上昇に努めたい。</p>	<p>○入館者数及び館外利用者数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入館者数 <p>評価基準に満たない可能性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館外利用者数 <p>評価基準に満たない可能性がある。</p> <p>○利用者満足度調査の結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「満足」「やや満足」の割合 <p>評価基準を満たす見込みである。</p> <p>◎利用者の増加を図るための具体的手法・効果にかかる評価</p> <p>評価基準を満たす見込みのもの、すでに超えているものが大半であるが、「出かける博物館」事業、入館者数及び館外利用者数については、評価基準に満たない可能性がある。</p> <p>入館者数及び館外利用者数については、台風による臨時休館や事業の延期・中止の影響も大きいと考えられるが、その他の時期も目標に達していない月がある。今後の館内外の事業の周知等により利用者数増を図りたい。</p>		
<p>(4) サービスの向上を図るための具体的手法・効果</p>	<p>◇サービスの向上が図られているか</p> <p>○イベントと連携した入館料無料日の実施</p>	<p>○イベントと連携した入館料無料日の実施</p> <p>「和泉市商工まつり」（今年は台風の接近によりイベントは中止）、「関西文化の日」と連携して入館無料の日とし、多彩なワークショップを実施するなどして府民の利用を促進した。夏休みには、子ども向けに「夏休みフェスタ！」を開催し、同じく入館無料の日とした。今後、2月に「冬の弥生ミュージアム」、3月に「弥生フェスティバル」を開</p>	<p>A</p> <p>○イベントと連携した入館料無料日の実施</p> <p>他館等との連携、夏休みの実施等、効果的に入館料無料日を設定したうえで実施がなされている。</p>	<p>A</p>	<p>施設所管課の評価は妥当である。</p>

	<p>○ホームページの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ更新回数 24 回 ・ホームページアクセス件数 30 万回 <p>○館外における資料の活用</p> <p>○施設の積極的な活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験ゾーンの活用 130 回 	<p>催予定。</p> <p>○ホームページの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ更新回数 22 回 ・ホームページアクセス件数 222, 668 回 <p>ホームページにより最新情報を提供するとともに、フェイスブックでも催事の告知や館の活動を発信した。ホームページに「カイト」と「リュウさん」による4 コママンガやアニメを連載することで、弥生時代を楽しく学んでもらう機会を提供することができた。</p> <p>○館外における資料の活用</p> <p>大阪府立狭山池博物館でミニ展示「弥生土器と記号文」を、大阪府立中央図書館で「卑弥呼の時代を描こう」展を実施した。</p> <p>○施設の積極的な活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験ゾーンの活用 141 回 <p>小学生等を対象に、体験ゾーン「竪穴住居の発掘と復元」の利用促進に努めた結果、既に目標の活用回数を超えた。</p> <p>◎自己評価</p> <p>館内外のイベントと連携して、入館料無料の日を設け、広く府民に博物館を利用してもらおう機会とした。今後、冬季、春季にも入館料無料の日を設定する予定で、季節ごとの実施を目指していく。また、ホームページを迅速に更新し、最新の情報を提供した。フェイスブックでの発信強化によって、アクセス件数も増加しており、目標の更新回数、アクセス件数を達成できる見通しである。</p>			
<p>(5) 新しい展示テーマ・運営手法の実行</p>	<p>◇魅力ある展示のテーマ選定、運営手法がとられているか</p> <p>○多様なニーズに応える展示の実施</p> <p>○楽しくわかりやすい解説の実施</p>	<p>○多様なニーズに応える展示の実施</p> <p>常設展示リニューアルに伴って増設されたデジタルサイネージを活用して、ビジュアルでわかりやすい可変展示を行った。ホームページに連載している「4 コママンガ」をここにも掲載し、館内でもその内容を見ることができるようにした。さらに最新のデジタル機器の活用に取り組み、IC タグをかざすだけの簡便なアクセス方法を利用した展示巡回システム、VR による遺跡情報の提供を行った。</p> <p>○楽しくわかりやすい解説の実施</p> <p>従来からの音声ガイド（日本語、英語）に加えて、館キャラ「カイト」と「リュウさん」による音声ガイドを、希望者に無料貸し出ししており、子どもだけではなく大人からも好評を得ている。館キャラによる音声ガイドは、英語、</p>	<p>A</p> <p>○多様なニーズに応える展示の実施</p> <p>デジタル機器の活用により、多様なニーズに応えた常設展観覧環境の提供が可能となっている。</p> <p>○楽しくわかりやすい解説の実施</p> <p>館キャラによる音声ガイドや漫画により、親しみやすくわかりやすい解説が提供されている。また、音声ガイドにより多言語での解説も実施されている。</p>	<p>S</p>	<p>先端的な取組みを積極的に実施しており、高く評価すべきである。</p>

		<p>中国語、韓国語バージョンも備えている。</p> <p>◎自己評価 従来の展示手法による常設展示を補完するかたちで、最新のデジタル機器を用いた展示・解説を試みた。デジタルサイネージのマンガ、VRによる遺跡紹介、館キャラによる音声ガイド等によって、年少者にも弥生文化への興味を呼び起こすことができた。これらによって魅力ある博物館運営が可能となった。</p>		<p>◎新しい展示テーマ・運営手法の実行にかかる評価 すべての評価基準を満たしている。また、デジタル機器を館キャラや漫画とあわせて活用することで、親しみやすくわかりやすい展示・解説が提供されている。</p>		
(6)他機関等との相互協力	<p>◇提案内容に沿った相互協力がなされているか ○博物館、民間企業、大学、民間団体等との事業連携</p>	<p>○博物館、民間企業、大学、民間団体等との事業連携 ・博物館：沖縄県立博物館・美術館、大阪府立狭山池博物館、篠山チルドレンズミュージアム、堺市博物館、泉佐野市立歴史館いずみさの、きしわだ自然資料館、さかい利品の杜、八尾市立しおんじやま古墳学習館、関西大学博物館等と展示、出張講座、文化庁補助事業等において連携した。(計 10 件) ・民間企業：西宮阪急子育てコミュニティーにおける「夏休みコトコト探検隊」、あべのハルカス近鉄本店まなぼスタジオにおける「サマーキャンパス」の各ワークショップに出展。富士ゼロックス株式会社、株式会社オリオン、(株)レディアント、もりや産業(株)、日本電気計器検定所等に対して、夏休みフェスタ、関西文化の日ワークショップへの出展を招致。近鉄文化サロン、朝日カルチャーセンターとも、出張講座事業において連携した。(計 10 件) ・大学：関西大学の動態モニタリングと展示評価調査への協力、奈良大学、桃山学院大学、近畿大学、大阪樟蔭女子大学、神戸女子大学等の各種授業科目の講義ならびに展示解説を実施した。また、「若き考古学徒、論壇デビュー！」と題して、大阪大学、大阪市立大学等の大学・大学院生による研究発表の場を設ける予定(1~3月)。(計 7 件) ・民間団体等：高槻市の NPO「はにコット」と連携し、相互のワークショップイベントへの出展、学芸員による出張講座等により協力関係を深めた。大阪高齢者大学とは、団体見学時の解説、講演会への学芸員の講師派遣(予定)により連携した。また、研究会「近畿弥生の会」との共催で、2017年度弥生時代講座「聞いてなっとく弥生の世界」を通年で開講している。(計 3 件)</p> <p>◎自己評価 博物館、民間企業、大学、NPO 法人、研究会等との幅広い相互協力により、展示、実習、ワークショップ、出張講座等を実施した。その結果、「産」「学」「民」との連携により、博物館の役割の一つである「府民協働」を進める</p>	A	<p>○博物館、民間企業、大学、民間団体等との事業連携 博物館、民間企業、大学、民間団体等と数多くの連携事業が積極的に実施されている。また、文化庁補助事業による「カード型教材「はくふだ」の制作と活用連携」事業では、連携先でも入館者につながる等、相乗効果を生み出している。</p> <p>◎他機関等との相互協力にかかる評価 すべての評価基準を満たしている。また、文化庁補助事業で実行委員会の中核館としての役割を果たす等、連携事業に積極的に取り組んでいることから、全体として計画を上</p>	S	文化庁補助事業で中核館としての役割を果たしている。

		<p>ことができた。</p>		<p>回る実施状況と評価できる。また、夏季特別展では利用者満足度調査において、沖縄の資料なので来館したという感想が多く、「満足」「やや満足」の割合が 97.2% であるなど好評であった。</p>		
<p>(7) 施設及び資料の維持管理の内容、的確性</p>	<p>◇施設・設備の維持・安全管理計画は適切か</p> <p>○施設管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間計画の策定と適切な実施 <p>○危機管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルの策定 ・防災訓練の実施 <p>○定期点検の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記録簿の作成 	<p>○施設管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共同指定管理者である近鉄ビルサービスとの緊密な情報交換のもとに策定された施設管理年間計画に従い、施設管理を行った。冷暖房機器、警報機器、昇降機等において故障が生じた場合、近鉄ビルサービスによる迅速な修復が行われる体制となっている。冷暖房機器については、故障による緊急修理対応を2回実施した。 <p>○危機管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火災、その他災害の予防および危機事象発生における対応について定めた、危機管理対応マニュアルを策定した。 ・和泉市消防本部の指導による自衛消防訓練の実施を予定している（12月）。 <p>○定期点検の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設管理を一元的に受け持つ近鉄ビルサービスにより、総合ビルメンテナンスの専門的見地から、エレベータ保守点検（8回）、消防設備点検（1回）等、施設・設備の保守定期点検が実施され、記録簿が作成されている。 <p>◎自己評価</p> <p>博物館施設、設備、館蔵資料は、近鉄ビルサービスとの緊密な連携により適正に維持管理を行った。これにより、来館者の見学環境及び資料の保存・展示環境を良好に保つことができた。また、適切な危機管理体制によって、安全な施設管理が行えた。</p>	<p>A</p>	<p>○施設管理</p> <p>年間計画が策定され、計画に沿った施設管理が実施されている。</p> <p>○危機管理</p> <p>危機管理対応マニュアルの策定、防災訓練の実施が適切になされている。</p> <p>○定期点検の実施</p> <p>施設・設備の定期点検が適切に実施され、記録簿の作成がなされている。</p> <p>◎施設及び資料の維持管理の内容、的確性にかかる評価</p> <p>すべての評価基準を満たしている。また、施設の老朽化による機器の故障等の際にも、迅速な連絡と対応がとられている。</p>	<p>A</p>	<p>大きな事故や故障なく維持管理されている。</p>
<p>(8) 府施策との整合</p>	<p>◇提案に沿った府施策との整合が図られているか</p> <p>○「こころの再生」府民運動への協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「こどもファーストデイ」の実施 12 回 <p>◇就職困難者等の雇用・就労支援の実施</p> <p>◇環境問題への取り組み状況</p>	<p>○「こころの再生」府民運動への協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「こどもファーストデイ」の実施 8 回 <p>毎月第3土曜日を「子どもファーストデイ」とし、子ども及び同伴の保護者についても入館料無料とし、各種ワークショップ（弓矢体験、米つき体験、石器体験、火おこし体験等）を実施した。</p> <p>◇知的障がい者 1 名の清掃業務への雇用を再委託先で実施。</p> <p>◇近鉄ビルサービスにより館内外の清掃、塵芥処理、館内空気環境測定を行い適正に環境を維持している。空気環境</p>	<p>A</p>	<p>◇提案に沿った府施策との整合が図られているか</p> <p>○「こころの再生」府民運動への協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「こどもファーストデイ」の実施 3 月までに計 12 回の開催が予定されており、評価基準を満たす見込みである <p>◇就職困難者等の雇用・就労支援の実施</p> <p>計画どおりの雇用がなされている。</p> <p>◇環境問題への取り組み状況</p> <p>適切に実施されている。</p>	<p>A</p>	<p>計画通りに実施されている。</p>

			<p>測定は 4 回実施し、結果はいずれも異常なしであった。</p> <p>◎自己評価 「こころの再生」府民運動への協力等の提案に沿った事業の推進に努め、子どもとのコミュニケーションを深めるきっかけづくりを応援した。また、就労困難者の雇用によって、行政の福祉化の推進に寄与することができた。</p>		
<p>IIさらなるサービスの向上に関する事項</p>	<p>(1)利用者満足度調査等</p>	<p>◇利用者満足度調査の実施により利用者の意見を把握し、その結果を運営に反映しているか</p> <p>○利用者満足度調査の実施 ・調査実施回数 4 回</p>	<p>○利用者満足度調査の実施</p> <p>・調査実施回数 2 回</p> <p>ミュージアムギャラリー「創作展いずみ」と夏季特別展「沖縄の旧石器時代と南島文化」について、満足度調査を実施し、結果を集計した。秋季特別展についても調査中で、今後、冬季企画展においても調査を実施する予定である。</p> <p>・満足度調査結果（数値）</p> <p>ミュージアムギャラリー 55.0 (90.0) % 夏季特別展 82.5 (98.6) % ※（ ）内はやや満足を含む値</p> <p>・利用者意見の反映事例</p> <p>子どもが館内で体験できるプログラム等を教えてほしいとの要望を受け、子ども向けコンテンツを「体験して学ぶコンテンツ」と「より深く学べるコンテンツ」に分けてまとめて紹介するチラシを作成し、受付で説明・配付するようにした。</p> <p>弥生博オリジナルのグッズを増やして欲しいとの要望を受け、「Tシャツ」（新デザイン2種類）、「ポロシャツ」、「ふだよせつづり」（はくふだ等カードコレクション用のバインダー）を新規製作し、販売した。</p> <p>◎自己評価 ミュージアムギャラリー・夏季特別展の利用者満足度調査から、満足とやや満足を足した割合が 94% を超えた。調査の結果については、幹部会議、館内会議、所管課との連絡会議で共有している。利用者から出された意見については、その内容を分析の上、展示室やホールの室温調整など必要な改善を行い、館運営に反映した。特に、展示方法、館内施設等への意見は積極的に取り入れ、良好な博物館環境の維持に努めた。特別展や企画展のテーマ選択、講演会テーマの決定、スポット展示の遺跡選択などにあたっては、来館者アンケートによる意見等も参考にしながら、慎重に検討し決定した。</p>	<p>A</p> <p>○利用者満足度調査の実施 ・調査実施回数 3 月までに計 4 回の実施が予定されており、評価基準を満たす見込みである。</p> <p>◎利用者満足度調査等 評価基準を満たしている。また、実施ごとに結果のまとめ・分析・共有がなされ、利用者の意見を反映した管理・運営の改善につながっている。</p>	<p>A</p> <p>定期的な利用者満足度調査の実施に加え、利用者の声が日々共有されている。</p>

	(2)その他創意工夫	<p>◇その他指定管理者によるサービス向上につながる取組み、創意工夫が行われているか</p>	<ul style="list-style-type: none"> 文化庁補助事業により作成した遺跡&博物館ガイド、カイトとリュウさんの「博物館へ行こう」7、「遺跡へ行こう」8を府内の小中学校、図書館などの教育施設に送付し、取材先の協力館等においても無償配布した。 夏季特別展に関して読売新聞大阪本社版に、秋季特別展に関して朝日新聞大阪本社版に広告を掲載した。 関西観光情報センター情報コーナーへの館行事チラシの配架などによって、関西国際空港内での広報を実施した。 和泉市養護教諭部会、泉州・紀北ミュージアムネットワーク、近畿弥生の会等のグループによるホール利用に対応し、館の幅広い活用を促進させた。 <p>◎自己評価 文化庁補助事業によるガイド冊子等の作成によって、考古学の遺跡や博物館について、幅広い年齢層に全国規模で広報普及することができた。また、特別展の開催時期に効果的に新聞広告を掲載し、広域に特別展の周知を図ることができた。</p>	A	<p>文化庁補助事業による漫画ガイドの作成、広報における新たな取り組みが行われている。</p> <p>◎その他創意工夫にかかる評価 文化庁補助事業により作成した漫画ガイドは、子どもだけでなく大人にも好評であり、無償配布により当館の周知が期待できる。広報についても新たな取り組みが行われており、評価基準を満たしている。</p>	S	<p>文化庁補助事業は指定管理者が自主的に費用を工面しサービス向上に取り組んでいるものであり、高く評価すべきである。</p>														
Ⅲ 適正な管理業務の遂行を図ることができる能力及び財政基盤に関する項目	(1)収支計画の内容、適格性及び実現の程度	<p>◇事業収支について、計画どおりに実施されているか</p>	<p>◇予算の範囲内で効果的かつ効率的な事業運営ができる事業計画を立案し、かつ、予算支出にあたっては費用対効果を勘案しつつ、比較見積りでの経費節減等を行いながら、最小経費で執行した。また、館事業の強化のため、文化庁補助金及び日本財団の助成を得て事業を充実させた。</p> <p>◎自己評価 予算の範囲内で効果的な事業計画を策定し、その執行に当たっては経費節減に留意し収入・支出のバランスの取れた事業を進めることができた。</p> <p>収支計画（11月補正予算）</p> <table border="0"> <tr> <td colspan="2">収入</td> </tr> <tr> <td>大阪府委託費</td> <td>115,383,000 円</td> </tr> <tr> <td>入館料収入</td> <td>3,917,000 円</td> </tr> <tr> <td>補助金等</td> <td>20,071,000 円</td> </tr> <tr> <td colspan="2">支出</td> </tr> <tr> <td>施設維持管理費</td> <td>21,036,000 円</td> </tr> <tr> <td>人件費他</td> <td>118,335,000 円</td> </tr> </table> <p>よって収支のバランスがとれている。</p>	収入		大阪府委託費	115,383,000 円	入館料収入	3,917,000 円	補助金等	20,071,000 円	支出		施設維持管理費	21,036,000 円	人件費他	118,335,000 円	A	<p>経費削減に加え、外部資金の活用がなされている。</p> <p>◎収支計画の内容、適格性及び実現の程度にかかる評価 委託費、入館料収入に加え、外部資金の積極的な活用によってより充実した事業が実施されており、評価基準を満たしている。</p>	A	<p>計画通りに実施されている。</p>
	収入																				
大阪府委託費	115,383,000 円																				
入館料収入	3,917,000 円																				
補助金等	20,071,000 円																				
支出																					
施設維持管理費	21,036,000 円																				
人件費他	118,335,000 円																				
(2)安定的な運営が可能となる人的能力	<p>◇必要な人員数及び人材を確保・配置のうえ、適切に事業が実施されているか</p>	<p>◇提案に沿った人員を博物館に配置し、事業計画に沿って適切に事業を実施した。</p>	A	<p>◇必要な人員数及び人材を確保・配置のうえ、適切に事業が実施されているか 適切な人員配置により、充実した事業実施がなされている。</p>	A	<p>計画通りに実施されている。</p>															

	◇従事者への管理監督体制・責任体制が整備されているか	◇大阪府文化財センター本部における幹部会議、博物館定例会議、文化財保護課との連絡会議（いずれも月1回）及び博物館内連絡調整会議（週1回）を開催し、事業情報の交換、入館状況、注意事項等の周知を図り、責任体制を明確にし、設置者及び法人本部からの適切な指導・管理監督体制のもとに円滑な組織運営を行った。 ◎自己評価 博物館の運営を効率的に進めるために必要な職員を、博物館と本部に配置し、適正な管理監督体制・責任体制を維持しながら、適切に事業が実施できた。		◇従事者への管理監督体制・責任体制が整備されているか 関係者間で日常的に密な連絡調整・情報共有がなされ、明確な管理監督・責任体制のもとで管理・運営がなされている。 ◎安定的な運営が可能となる人的能力にかかる評価 必要な人員の配置による確実な管理監督体制のもと、適切な業務が実施されていることから、評価基準を満たしている。		
(3) 安定的な運営が可能となる財政的基盤	◇法人の財務状況は適切か	【大阪府文化財センター】 大阪府内の発掘調査の受託事業や博物館の管理運営を、スリムな組織体制と経費節減の徹底により安定的に経営している。 28年度事業収入 673,817 千円 28年度事業活動収入 733,823 千円 28年度法人の基本財産 116,700 千円 28年度正味財産期末残高 1,592,815 千円 借入金なし 【近鉄ビルサービス】 近鉄グループのビル物件等を中心に、地方公共団体や民間企業の施設維持管理業務等を受注し、さらに徹底したコスト削減により安定的収益を維持している。 28年度売上額 19,547,717 千円 28年度純利益 517,898 千円 借入金なし ◎自己評価 両法人ともに経営規模・事業規模・組織規模及び財務状況において、博物館の安定経営が可能となる体制を維持した。	A	大阪文化財センター、近鉄ビルサービスとも、収入や売上高の著しい減少はみとめられず、借入金もない。 また、近鉄グループホールディングス株式会社についても大きな変動はみとめられない。 ◎安定的な運営が可能となる財政的基盤にかかる評価 グループの各構成員、構成員の親会社とも安定した経営状況にあり、評価基準を満たしている。	A	計画通りに実施されている。

※評価の基準：評価は下記の4段階評価とする。

S：計画を上回る優良な実施状況

A：計画どおりの良好な実施状況

B：計画どおりではないが、ほぼ良好な実施状況

C：改善を要する実施状況